

令和5年2月 桑名市総合教育会議

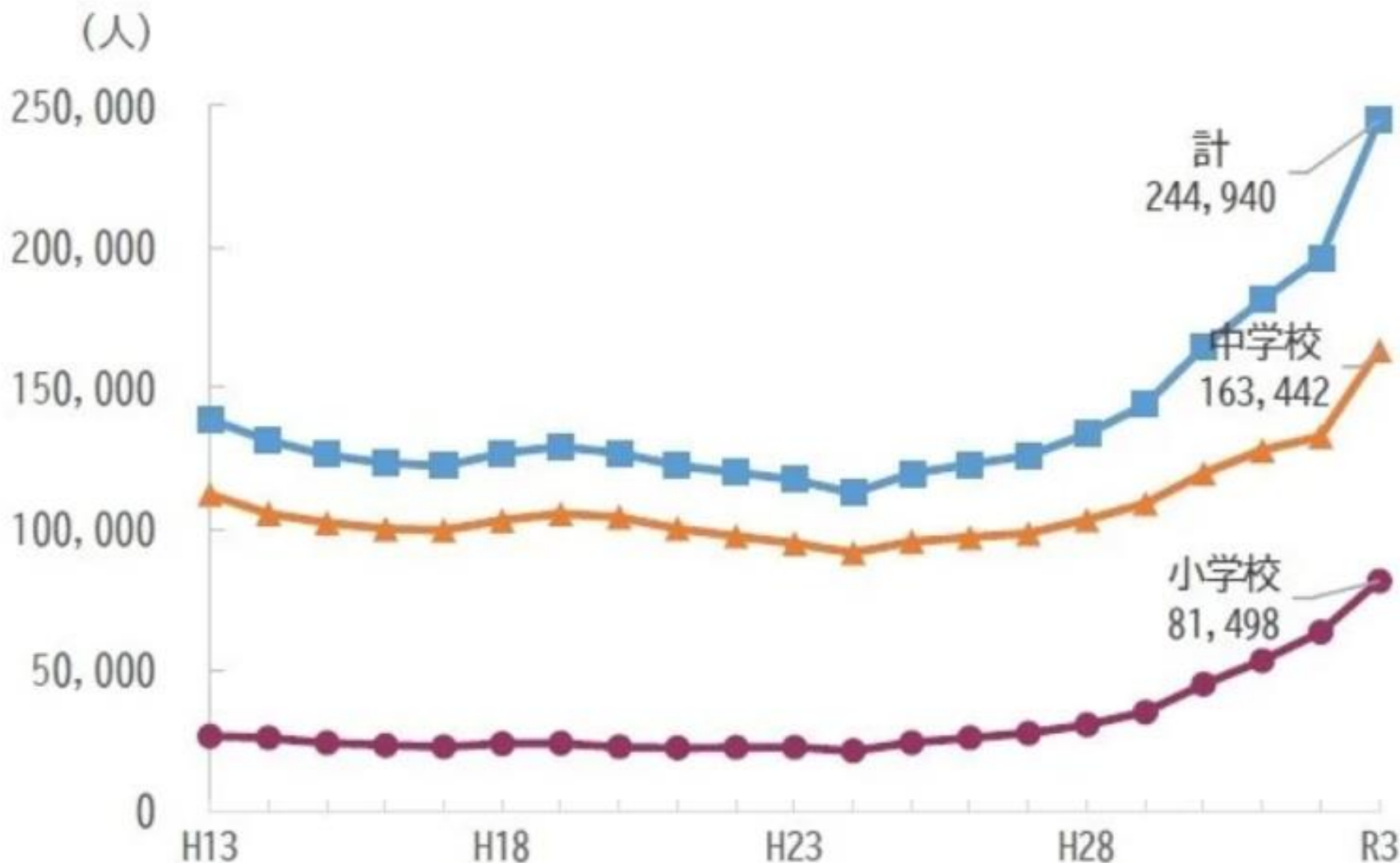
**不登校児童生徒の社会的自立を促す支援の在り方
～ 「今」を充実させていくために ～**





不登校児童生徒数の推移

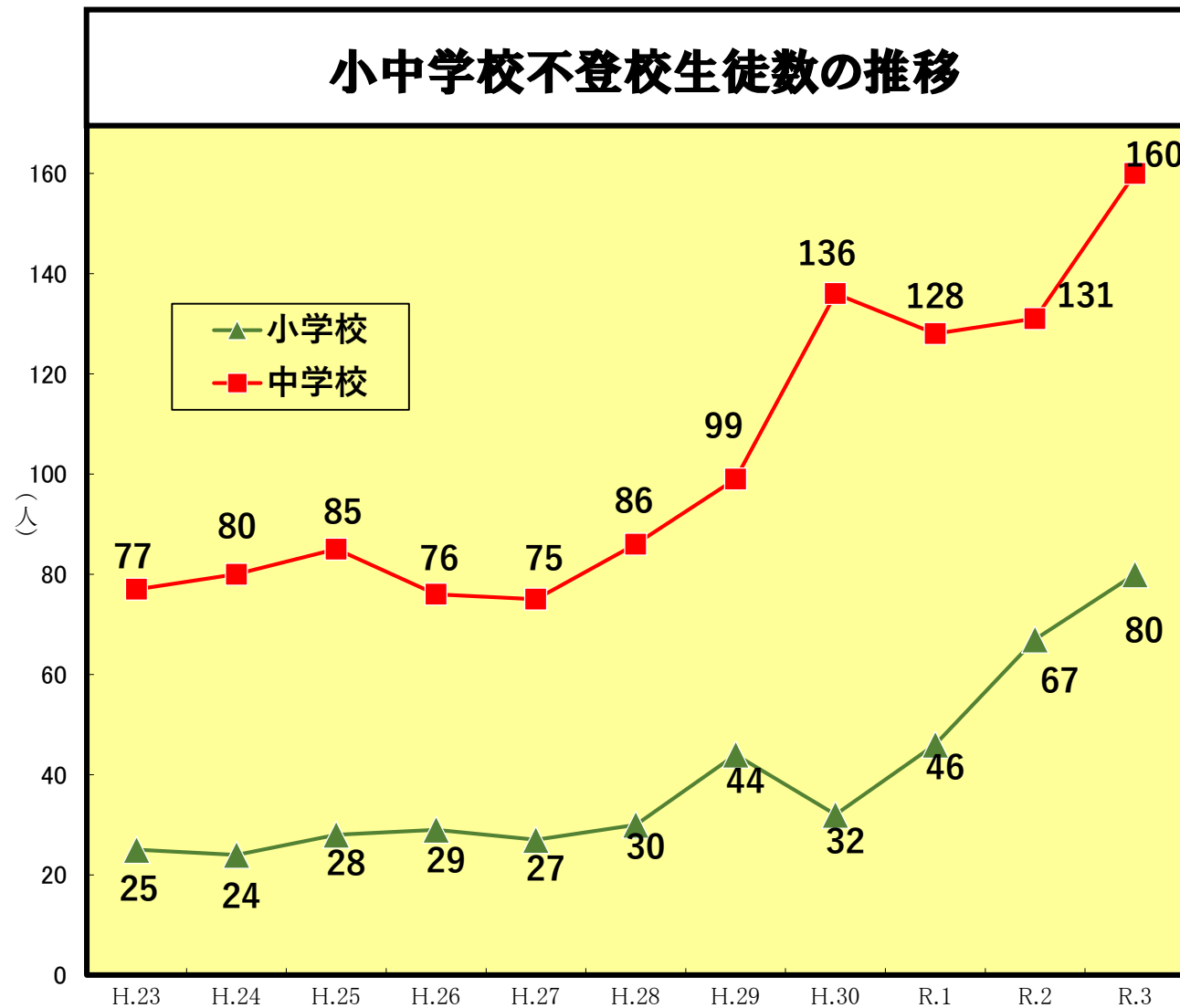
～増え続ける不登校児童生徒～



不登校とは・・・

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した児童・生徒（病気や経済的理由を除く）

桑名市立小中学校における不登校の状況について



令和4年12月現在 不登校児童生徒数

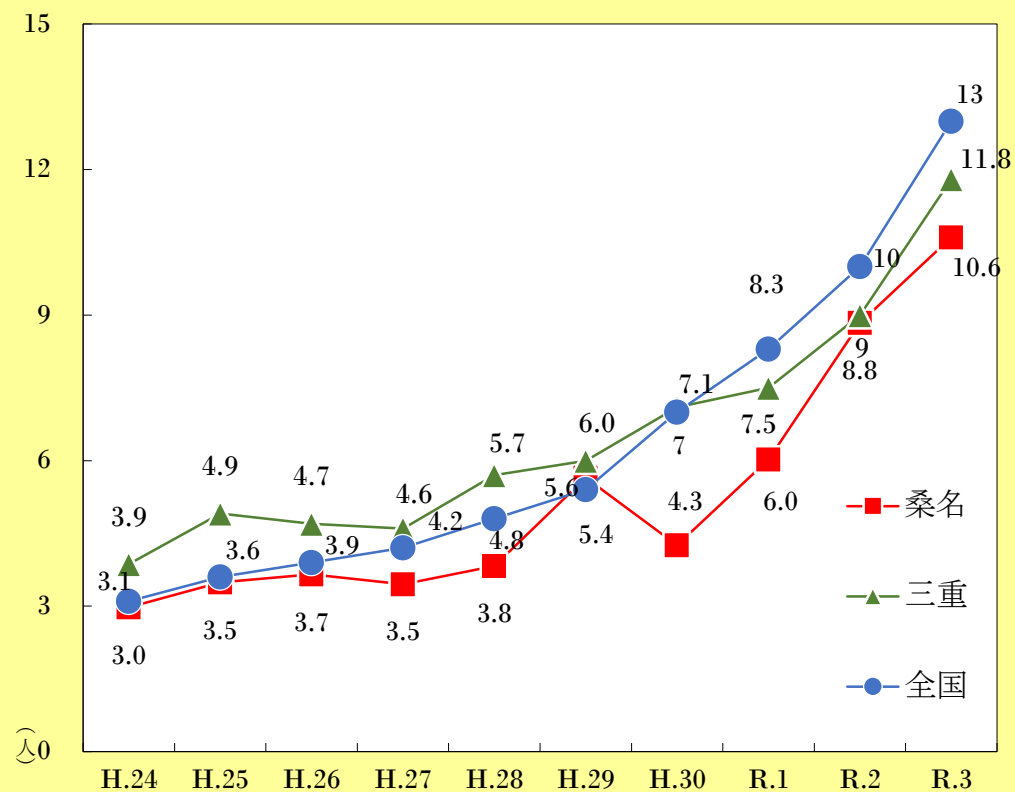
小学校69名 中学校182名



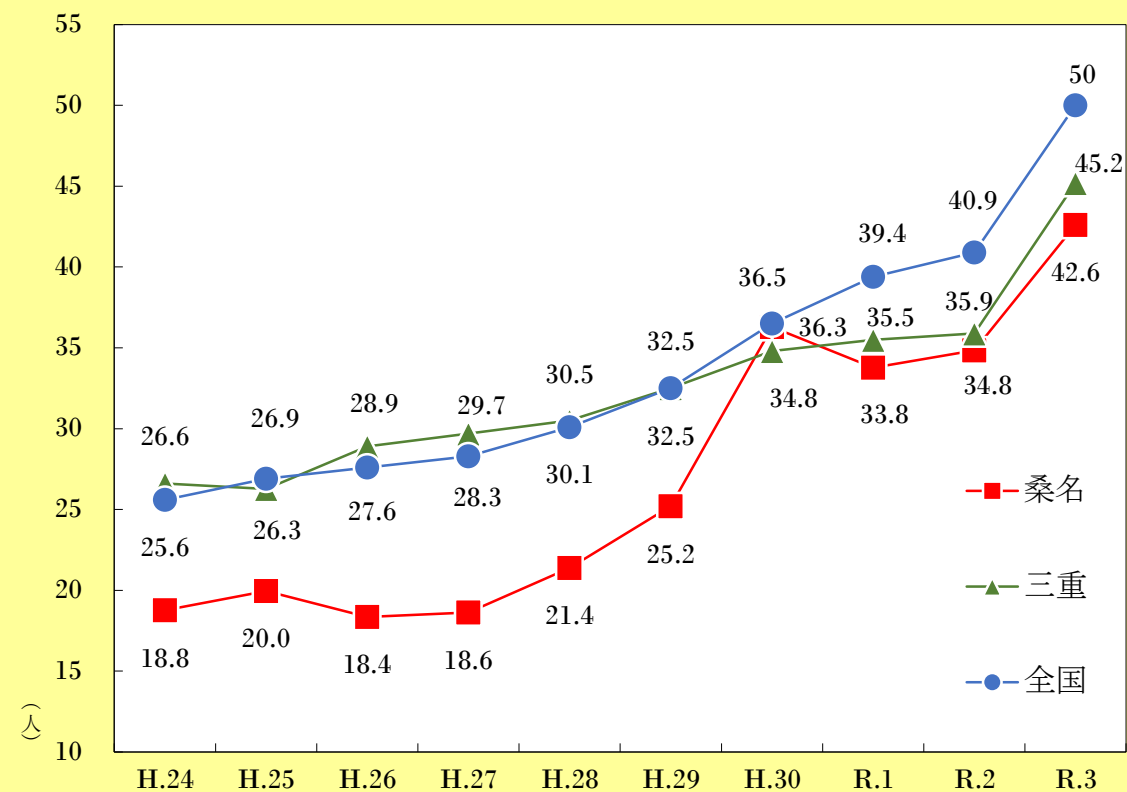
桑名市立小中学校における不登校の状況について



小学校:不登校生徒数の推移(1000人当たり)



中学校:不登校生徒数の推移(1000人当たり)

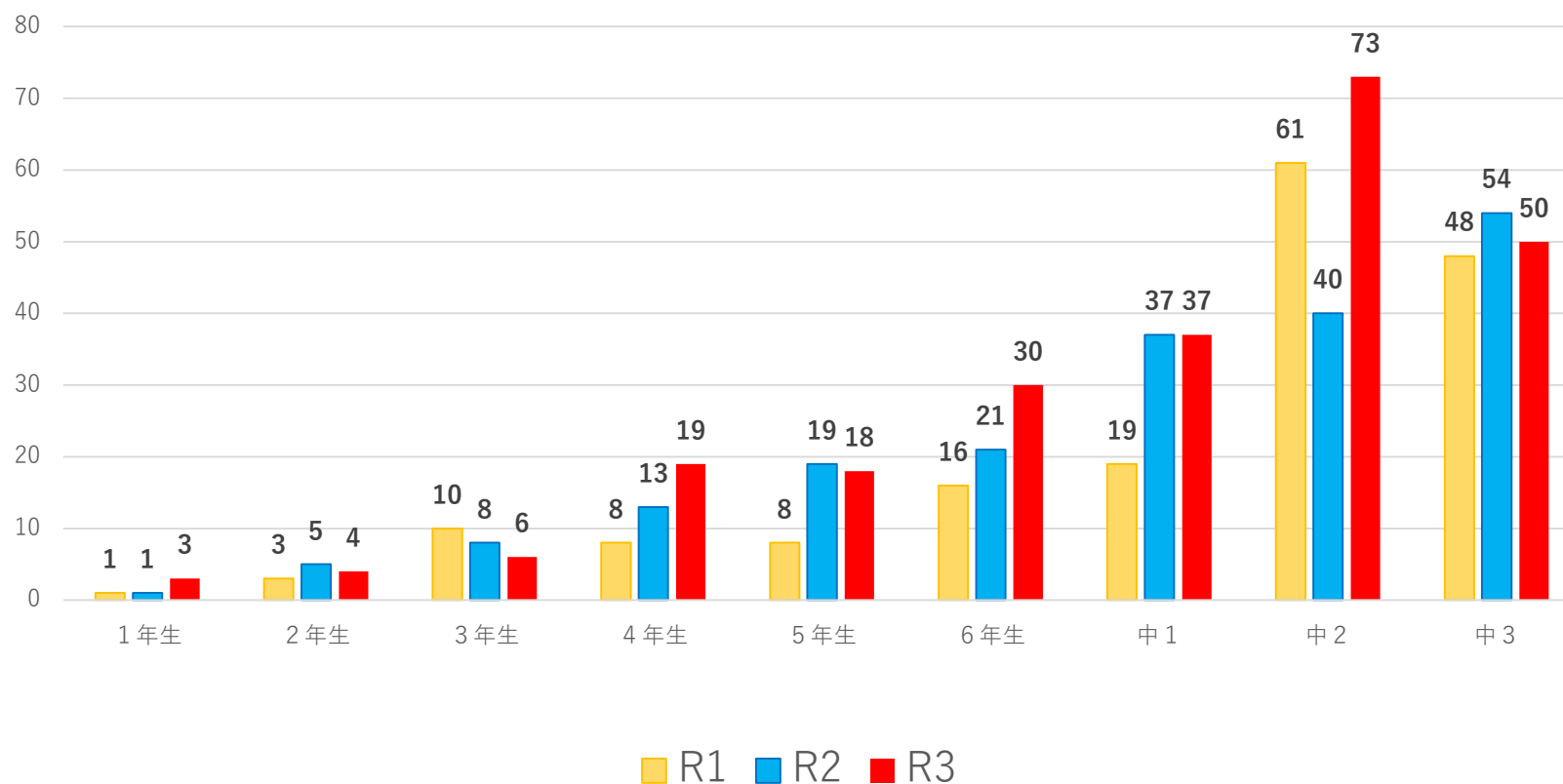


令和3年度 桑名市の不登校児童数は1000人あたり小学校10.6人、中学校42.6人

桑名市立小中学校における不登校の状況について



令和元年度～3年度 学年別不登校児童生徒数(桑名市)

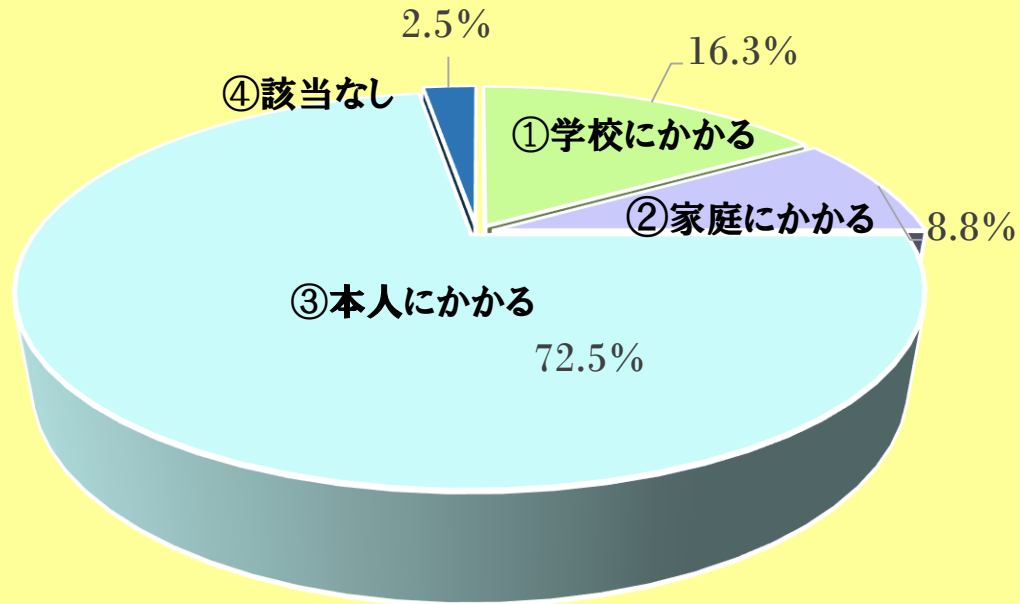




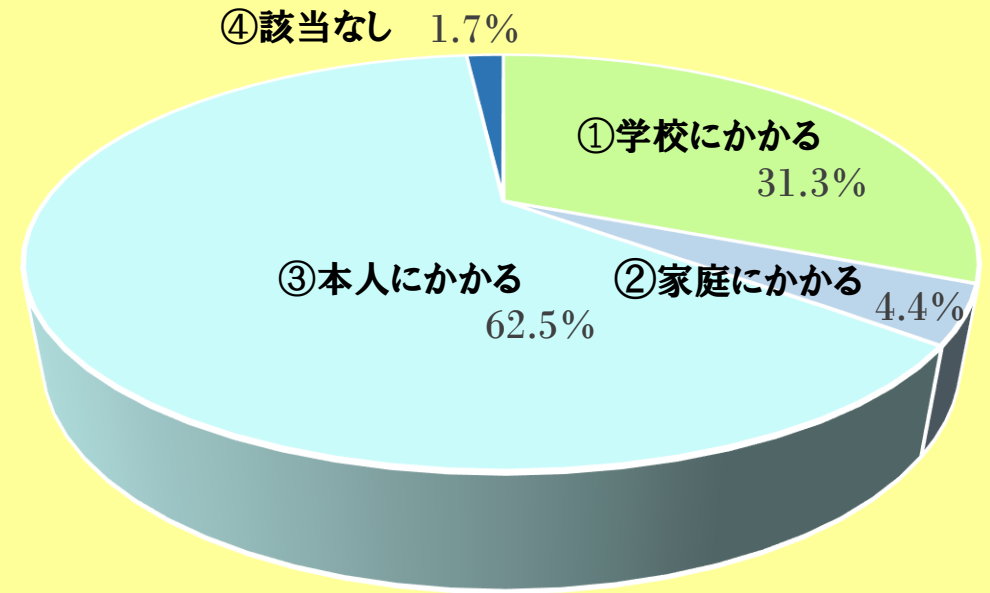
桑名市立小中学校における不登校の状況について



令和3年度 不登校の主たる要因（小学校）



令和3年度 不登校の主たる要因（中学校）



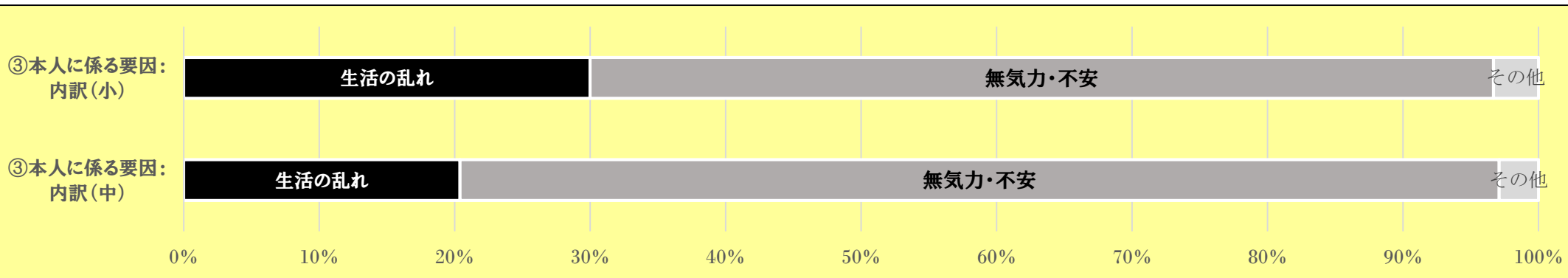
文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導諸課題に関する調査」より



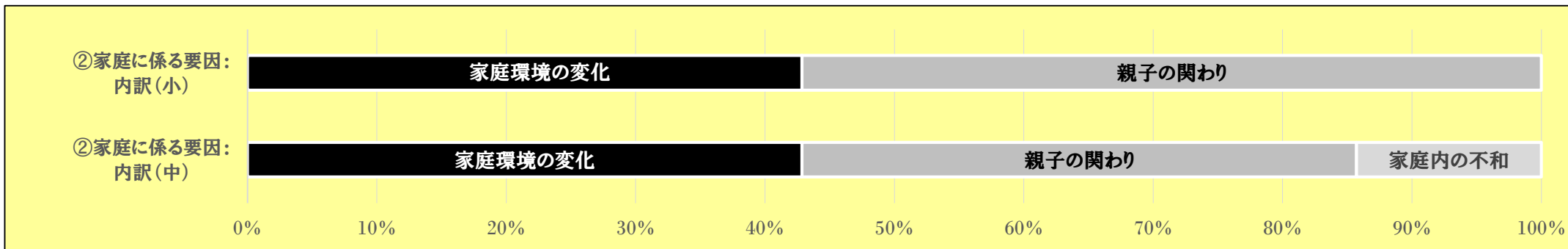
桑名市立小中学校における不登校の状況について



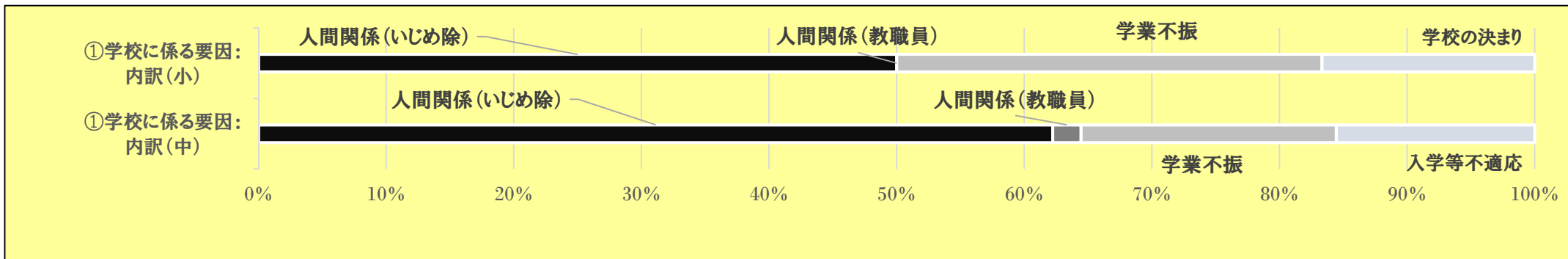
本人に係る



家庭に係る



学校に係る





不登校児童生徒等に対する教育機会の確保等に関する事項

児童生徒が安心して教育を受けられる魅力ある学校づくり

- ・ 魅力あるより良い学校づくり
- ・ いじめ，暴力行為，体罰等を許さない学校づくり
- ・ 児童生徒の学習状況等に応じた指導・配慮の実施

不登校児童生徒に対する効果的な支援の推進

- ・ 個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援の推進
 - ➡ 不登校児童生徒や保護者の意思を尊重しつつ，状況把握及び関係機関等との情報共有などの継続した組織的・計画的な支援の推進 等
- ・ 不登校児童生徒に対する多様で適切な教育機会の確保
 - ➡ 不登校特例校・教育支援センターの設置促進，教育委員会・学校と民間団体の連携等による支援の推進，多様で適切な学習活動の重要性及び休養の必要性を踏まえた支援 等
- ・ 不登校等に関する教育相談体制の充実
 - ➡ 教員やスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，関係機関が連携した体制構築の促進 等



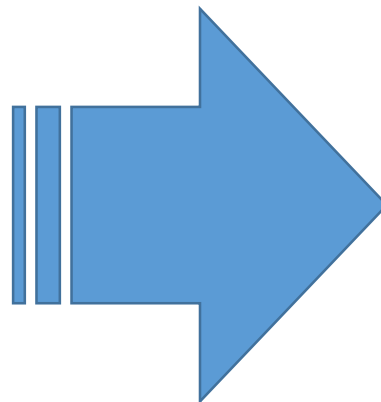
児童生徒が安心して教育を受けられる魅力ある学校づくり



今までの教室



決められた教室・学年の中で、
黒板とチョーク、紙と鉛筆で、
「一律の目標のもとで」
「一律の内容を」「一律のペースで」
「一斉に」「受動的に」学ぶ



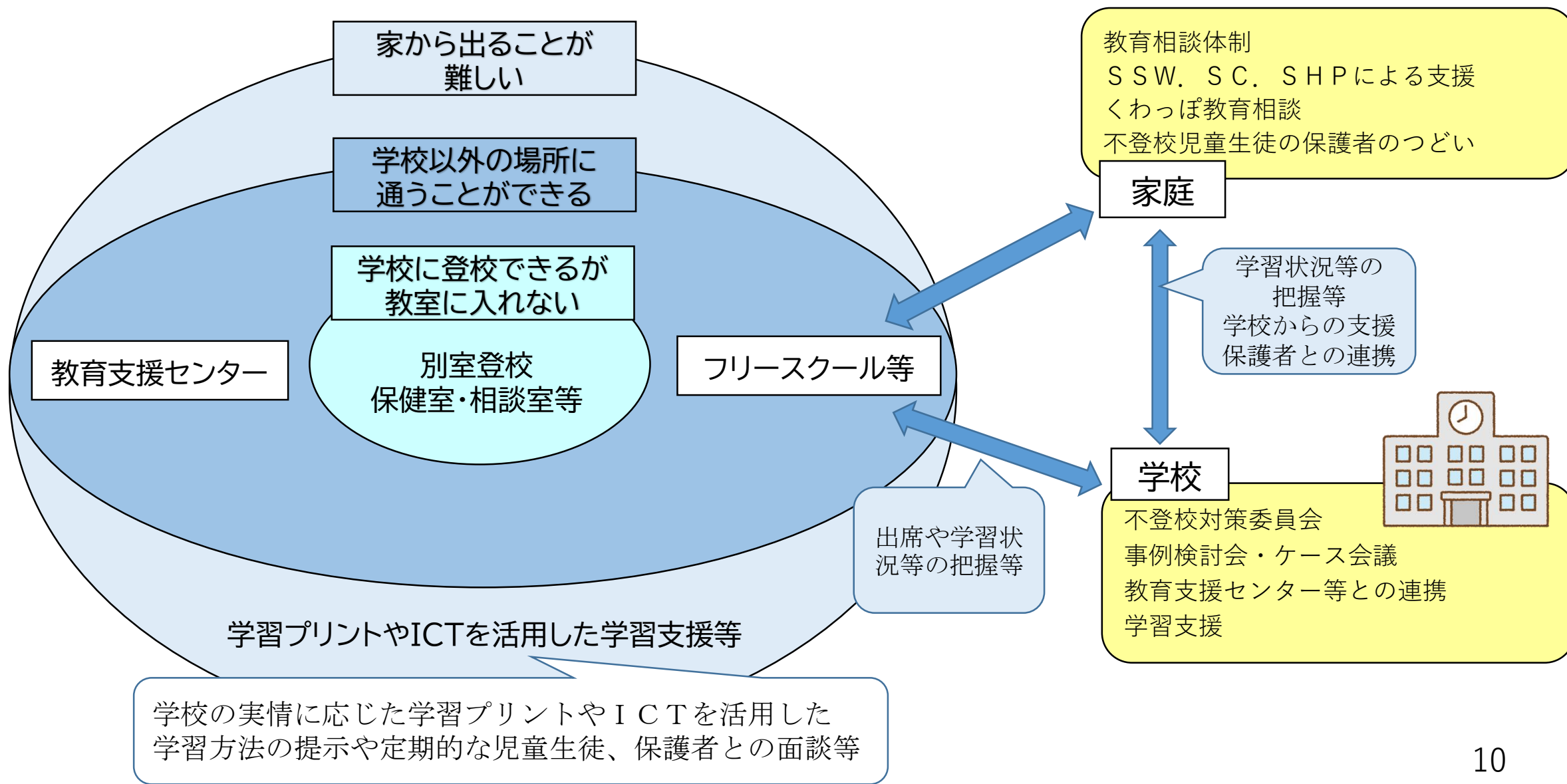
これからの教室



教師による
適切な支援

居場所や学年や時間の制約を受けず、
1人1台端末とリアルを組み合わせ、
「一人ひとり違う目標と教材選択で」
「多様な内容を」「多様なペースで」
「個別に協働的に」「主体的に」学ぶ

桑名市における不登校児童生徒への支援の現状





桑名市における不登校児童生徒への支援

～学校編～



市内中学校の事例より

A中学校



個別ブース
を設けた
別室対応

個別ブースの他に「共用スペース」
「交流スペース」を設け、個々の状
況に応じて活用できるよう工夫され
ている。



B中学校



教員と学生ボランティア
が連携し、生徒への支援
をおこなっている。

自分のペースで休
息をとりながら、
エネルギーをため
る場所として校内
に設置



桑名市における不登校児童生徒への支援

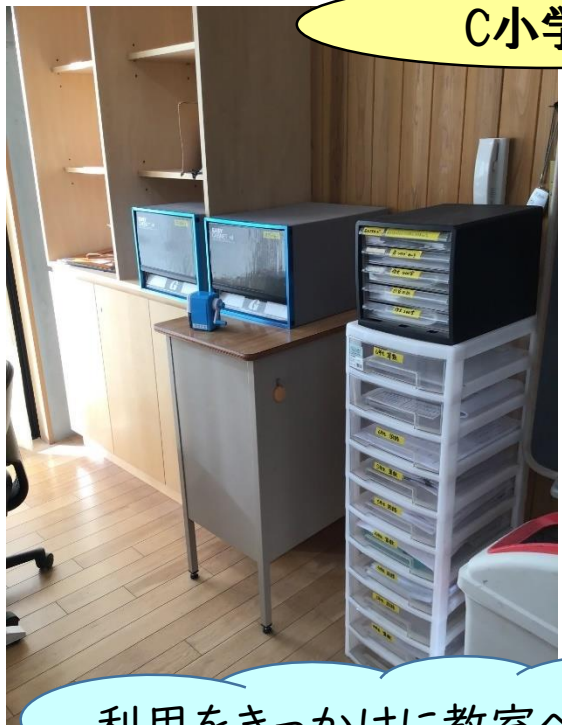
～学校編～



市内小学校の事例より

集団での生活に過度なストレスがかかり、教室に入ることが難しい場合、別室での学習をおこなっている。

C小学校



利用をきっかけに教室へ入るようになった。



別室があることで、学校に登校できるようになった。

D小学校



1日をどうすごすか自分で目標をたてた学習ができている。





桑名市における不登校児童生徒への支援

～教育支援センター編～



教育支援センター(ふれあい教室)とは？

■不登校の児童生徒(また、保護者)に対し、社会的自立に向けての支援を行うため、教育委員会が学校以外の場所に設置する施設

支援内容

学校、関係機関との連携をはかりながら、

集団生活への適応

情緒の安定

基本的生活習慣の改善
基礎学力の補充

通室の流れ

相談・見学
(学校を通じて予約)



《まずは個室で体験通室》



安定した通室



《個室から小集団の部屋へ》
(移動のタイミングは子どもの状況による)



本物力こそ桑名力

ふれあい教室の1日(9:00～14:00)

9:00

ふれあい
タイム①

10:00

集中の時間

11:00

ふれあい
タイム②

12:00

昼 食
お昼の会

13:00

ふれあい
タイム③

13:55

1日の
振り返り

【様々な体験学習】

■教室外学習 ■体験学習 ■季節にあった調理実習や行事



寺町商店街
(三八市)



鈴鹿市青少年自然の家
(カレー作り)



クリスマス会
(クッキーづくり)

【ふれあいタイム】

体育室でスポーツ

ボードゲーム



【集中の時間】

- 学習
- ものづくり
- 読書 など



桑名市における不登校児童生徒への支援

～教育支援センター編～



教諭2人、指導員4人（1日のスタッフは5人）

カウンセラー月6回、専門相談員月1回、不登校支援アドバイザー月2回、SSW月2回

登録人数64人（小学生：20人、中学生：44人）R4.12現在

内訳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
(人)	1	3	2	2	8	4	10	10	24

実際の通室人数 R4.12月

	小	中
(人)	13	33

通室スタイル

	小	中
完全集団	7	16
完全個室	3	15
併用	3	2

通室方法

	小	中
送迎	13	23
自転車・徒歩		5
公共交通機関		5

学校復帰

	小	中
学校に完全復帰	3	0
学校に部分復帰 (うち、ふれあいと併用登校)	10 (10)	16 (15)
一時的に学校に復帰したが、現在不登校でふれあいにも通室していない	1	3



【児童生徒への支援】

- ・臨床心理士による相談、助言
- ・相談員が自宅へ訪問し、子どもとふれあう訪問支援（Iあいフレンド）

【保護者への支援】

- ・保護者同士の語らいの場、『ふれあい保護者会』の開催・・・年3回
- ・臨床心理士・ソーシャルワーカーによる相談、助言

【学校との連携】

- ・毎月の通室報告
- ・学校訪問期間に不登校児童生徒の情報共有・助言等
- ・教育相談の紹介（くわっぽ教育相談）

【関係機関との連携】

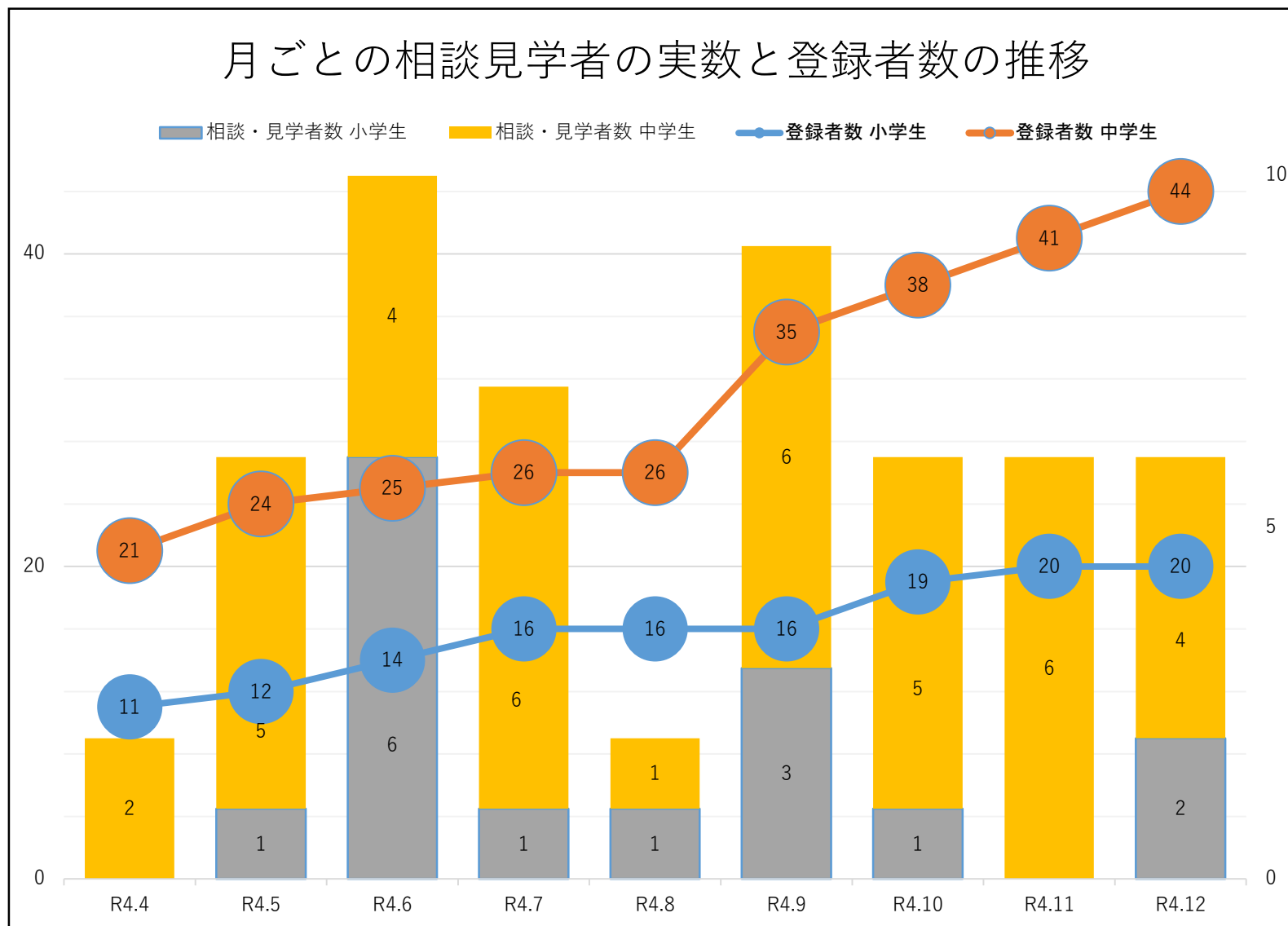
- ・精神科医による相談、助言（スーパーバイズド）・・・年6回
- ・不登校・長期欠席児童生徒の支援を考える事例検討会
- ・臨床心理士・ソーシャルワーカーによる相談、助言





桑名市における不登校児童生徒への支援

～教育支援センター編～



見学・相談待ち11人
(小学生4、中学生7)
R4.12月時点



保護者のつといでみられた保護者の思い

育て方が悪かったのか

行かないことが理解できない
朝になると、なんで行かない
のかと怒ってしまう

自分だけが心配性で騒いで
いるだけなのだろうか

子どもの不登校を悩むうちに自分
の生き方を見直すことができた

何が嫌なのかをはっきり言うことが出来ず
怠けなのではないかと思ってしまう

両親で不登校への理解が違う

同じ思いを抱える保護者と話をする
ことで、気持ちが楽になった

今のままでいいじゃないかと
思うようになった

通室生の声

いろんな人としゃべ
れるようになった

悩みを相談できる大人
ができてよかった



生活リズムが安定した

友達ができた



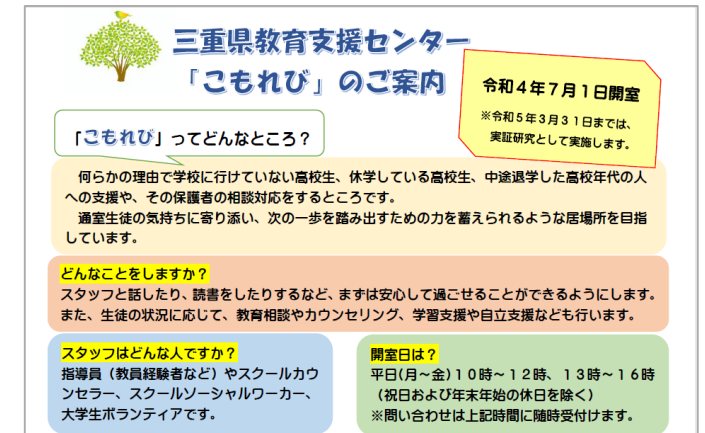
教育支援センター機能の強化

- ① 県内 6 地域（7 施設・・・**桑名**、鈴鹿、津 2、松阪、伊勢、名張）に SC・SSW を重点配置

- **通室していない不登校児童生徒に対しても支援を可能に**
（訪問型支援 / 福祉、医療とのネットワークを活用した支援などを可能に）

- ② 県立教育支援センター設置に向けて

- 学校に行けていない高校生、休学している高校生、中途退学した高校年代の人への支援、保護者の相談対応
- **卒業後が不安な中学 3 年生の通室も可能**



三重県教育支援センター「こもれび」のご案内

令和 4 年 7 月 1 日開室
※令和 5 年 3 月 31 日までは、実証研究として実施します。

「こもれび」ってどんなところ？
何らかの理由で学校に行けていない高校生、休学している高校生、中途退学した高校年代の人への支援や、その保護者の相談対応をします。
通室生徒の気持ちに寄り添い、次の一歩を踏み出すための力を蓄えられるような居場所を目指しています。

どんなことをしますか？
スタッフと話したり、読書をしたりするなど、まずは安心して過ごせることができますようにします。また、生徒の状況に応じて、教育相談やカウンセリング、学習支援や自立支援なども行います。

スタッフはどんな人ですか？
指導員（教員経験者など）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学生ボランティアです。

開室日は？
平日（月～金）10 時～12 時、13 時～16 時
（祝日および年末年始の休日を除く）
※問い合わせは上記時間に随時受け付けます。



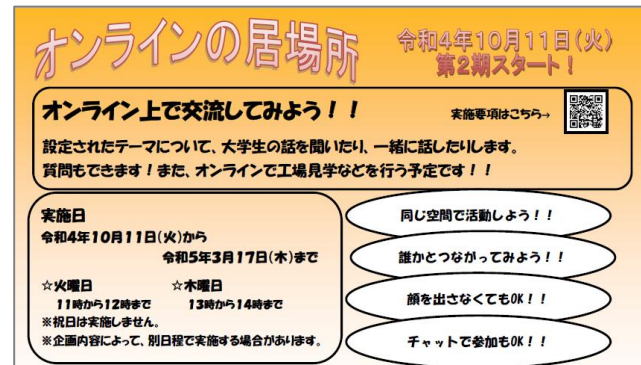
「オンラインの居場所」

Web会議システム（zoom）やメタバースを利用したコミュニティづくり

- 対象：不登校の中学生・高校生
- ファシリテーターの管理のもと、オンライン上で対話や体験活動を行う

プログラムの一例

- 「アニメ業界を覗いてみよう」アニメーターの仕事場参観
- 美術館・博物館・企業等とのコラボレーション企画
- クイズ大会
- 今日のメタバース！（おしゃべり、運動、創作など）
- 他県との交流「さいたま市へ修学旅行！！」



オンラインの居場所 令和4年10月11日(火) 第2期スタート！

オンライン上で交流してみよう！！ 実施要項はこちら→

設定されたテーマについて、大学生の話を聞いたり、一緒に話したりします。
質問もできます！また、オンラインで工場見学などを行う予定です！！

実施日
令和4年10月11日(火)から
令和5年3月17日(木)まで

☆火曜日 11時から12時まで
※祝日は実施しません。
※企画内容によって、別日程で実施する場合があります。

☆木曜日 13時から14時まで

同じ空間で活動しよう！！
誰かとつながってみよう！！
顔を出さなくてもOK！！
チャットで参加もOK！！

案内チラシ
(上) 参加案内 (右) コラボ企画



オンラインの居場所イベント
「家から MieMu の企画展を見てみよう！」

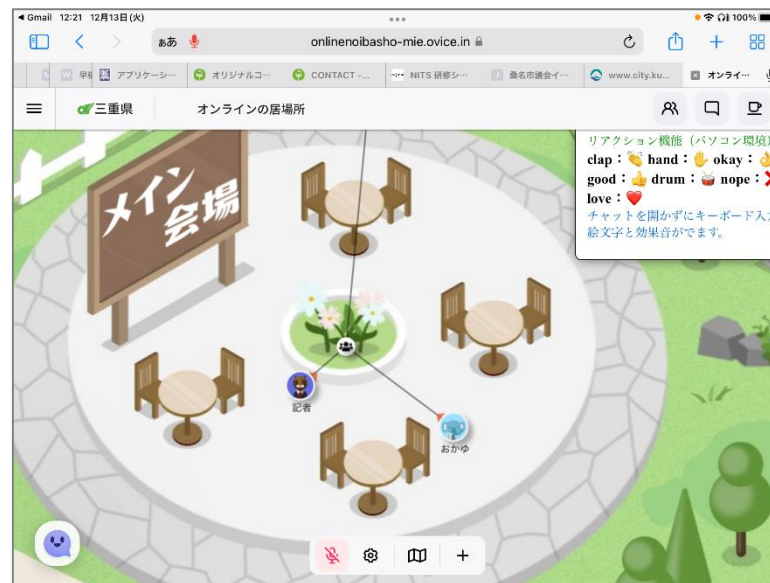
MieMu 三重県総合博物館
三重県総合博物館
オンラインの居場所

コラボレーション企画
今回は、「オンラインの居場所」と三重県総合博物館(MieMu)をZoomでつなげて、現在開催中の企画展「僕と三夏のツラバシイなたち」を観覧します。
MieMuの常設展と一緒に観覧することで、ツラバシイなたちを詳しく知ることができます。企画展「ツラバシイなたち」の企画展やツラバシイなたちの企画展などもあり、協力展示の展示です！！

開催日
10月11日(火)
13時00分～14時00分

【参加について】
※オンラインの居場所に参加するには、事前に登録が必要です。
登録はこちらから→

登録完了後、三重県教育委員会から登録していただいたメールアドレスに、オンラインの居場所参加手帳を送ります。
※オンラインの居場所について知りたい方はこちらから→



メタバースでの交流の様子



不登校特例校分教室 福生第一中学校「7組」

生徒の状況に合った独自の教育課程を編成する新たな学びの場「7組」の実施

- 対象：福生市立中学校に在籍している生徒
- 定員 20 人
- 正規の教員を配置
- 総授業数 910時間（通常1015時間）
- 削減した学習内容を達成するための「プロジェクト学習」と「個別学習」の時間を設置
- 制服なし、持ち物の指定なし

福生市立学校保護者の皆様へ

**福生市教育委員会では不登校生徒用のための
新たな学びの場「7組」を開室しました**

福生市教育委員会では、不登校のお子さんが社会的に自立できる力を育てていくために、お子さんの状況に合った独自の教育課程を編成していく「新たな学びの場」として、7組をつくりました！

**7組は・・・
学びのスタイルを自分でデザインできる教室です**



- ✓ 学校で！
✓ 自宅で！
- ✓ 先生と！
✓ 友達と！
✓ 一人で！
- ✓ 自分の興味・関心のある内容を！
✓ 学年をさかのぼった内容を！

どこで 誰と 何を

どのように学ぶのかを自分で決める！選択する！



オンライン学習支援 フレンドリーオンライン

学校への登校が難しい児童生徒が周囲とつながりながら、自分のペースで学びを進める機会を保障

- 対象：熊本市に在住する児童生徒で別室等、学校等での支援以外を希望する登校が難しい児童生徒
- 配信拠点校（小学校1 中学校1）
- 教育支援センター（フレンドリー）、配信拠点校※の学習活動への参加も可能 ※転籍必要
- 参加日は、指導要録上の出席扱いの対象

フレンドリーオンラインの内容 	
セルフタイム 学習アプリを活用した学習	クリエイティブタイム 創造的な学習活動
ムービータイム 動画コンテンツを活用した学習	ミッションタイム 課題解決型学習
国算タイム 国語・算数の学習	ベーシックタイム 芳野中の各教科の先生による授業
わくわく学習 GTIによる出前授業	心すっきりタイム SCによるお話し



熊本城



広島市

- VRメタバースを使用した不登校学生対象の居場所支援プログラムを実施

埼玉県

- 大学と県や市が連携
- 学校の相談室や保健室、教育支援センターなどへ登校する児童生徒に対して、心理学等を履修する学生や教員を志望する学生をボランティアとして派遣

大分県

- アウトリーチ型の教育相談アドバイザーを配置
- 来所・電話・メールでの相談に加えて、家庭を訪問しての相談や支援



不登校児童生徒の社会的自立を促す支援の在り方～「今」を充実させていくために～



- 不登校 ≠ 問題行動 その子なりの前への進み方があることを児童生徒も大人も認識すること
- すべての児童生徒が長い人生の中で自ら社会の中に自分の居場所を作っていけるように
- 「今」が充実した時間となるために
 - ・ 不登校児童生徒や保護者の意見を十分に聴き尊重すること
 - ・ 学校以外の居場所の選択肢を増やすこと
 - 「教育支援センター機能の強化」 「民間・地域の力の活用」 「サードプレイスの設定」 など
 - ・ 保護者向け相談体制の強化



社会総がかりで不登校児童生徒への理解と支援体制を